

あかぎね (あかぎね (赤城嶺) お子さんのよいところ

我に似よ 我に似るなと子を思ひ

上の言葉は、江戸時代に作られた川柳です。作者はわかりません。無名で多くの庶民が作った川柳の中で、今まで語り継がれているのは、内容が示唆に富んでいるからでしょう。

あまり裕福ではない家の、いや、どちらかというと軒の傾いた長屋とかに、仕事から帰ってきた職人風の父親が、幼子の寝顔を見て心の中でつぶやいています。「私は貧しい仕事師だが、自分の性質だとか、性格を考えると、自分の几帳面で、もの堅いところは、我ながら良い性格、好ましい性質だと思っている。こういう自分の性格、性質はこの子に似てほしい、伝わってもらいたい。しかし、私の短気なところ、どうしても融通のきかない頑固なところは自分の欠点だと思っている。こういうところは、我が子に似てほしくない、伝わってもらっては困る」

こんな情景が浮かんできます。

ここには、親としての長所、短所の自覚があります。

私たちは「あなたは、どんな子に育ってほしいですか」と問われたとき、

「素直で思いやりのある子」とか

「いや、これといったものはありません。ただ、本人の個性を生かして精一杯生きてもらいたいと思います」

「他人に迷惑さえかけなければ、あとは本人任せです」

などと、抽象的な一般論しか言えないのではないでしょうか。

この川柳に会って、ふと考えてしまいました。自分の子に対し、どれだけ「我に似よ我に似るな」と願望するものがあるかどうか……。そういう親としての自分を自覚しているかどうか……。

教師としての自分、親としての自分をどれだけ見つめることができるかが、今ほど問われている時代はないと思います。

児童のあいさつで元気が出てきます

朝、車から降りると北門から登校してくる児童が毎日、「おはようございます」と元気なあいさつをしてくれます。

そして、先週から毎日、下校する4年生の女子2名が校長室の窓まで来て笑顔で「さようなら」をしてくれます。とてもうれしい気持ちになります。

あいさつを元気に交わすと、大人も子どもも落ち着きと安らぎを感じます。よい気持ち、安心した気持ちは学校生活に活力を生みます。活力は学習や行事に取り組む気持ちの源(みなもと)です。

右の言葉は、学級に掲示してある「東小あいさつ標語」です。これからもっともっと“あいさつの輪”を広げていきたいと思います。

ご家庭でも折に触れ、言葉をかけていただければありがとうございます。よろしくお願いします。

さわやか あいさつ いきいき ひがし

おはよう
ございます



伊勢崎市立赤堀東小学校



おはよう



あいさつのコツ

あ

い

さ

つ

自分から

あ か る く
い つ で も
さ き に
つ づ け ょ う

こんにちは



さようなら



